

齋宮跡の顕彰運動 けんしょう

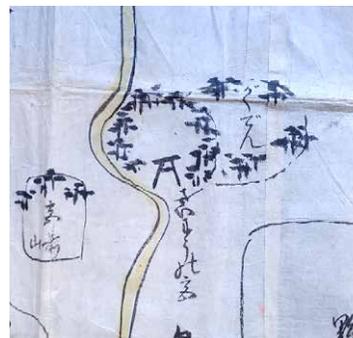
昭和 54 年 (1979) 3 月 27 日、齋宮跡は国史跡に指定されました。大規模な宅地開発計画を受けて昭和 45 年 (1970) から開始された発掘調査によって「幻の宮」と呼ばれていた齋宮の様子が次第にわかりつつあります。しかし、地元では発掘調査以前から、齋宮・齋王のゆかりの地を大切にする活動（顕彰運動）が行われてきました。主な活動をご紹介します。

江戸時代の絵図には、齋王の森は「齋王の森」や「齋王の宮」、現在の竹神社は「齋宮旧地森」などと表現され、地元で特別な扱いを受けていた様子が分かります。

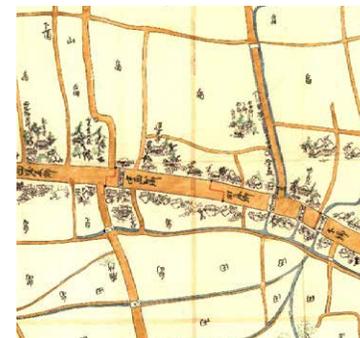
明治時代になると、地元の有力者が中心になって齋宮の復興運動を起こします。明治 36 年 (1903) には、齋宮村の村長であった榎谷定治郎氏などを中心に「齋宮舊跡表彰会」が結成され、齋宮跡にゆかりのある場所に目印として標石が建てられました。

大正時代には、竹川村の鈴木直吉氏を中心に、花園の石碑が建てられました。昭和 10 年 (1935) には『齋宮村郷土誌』が発行され、地元住民に対し、齋宮村の歴史を伝える努力がなされました。こうした活動もあり、昭和 17 年 (1942) には齋宮跡が史跡指定される目前までいきましたが、太平洋戦争の情勢が悪化し、実現しませんでした。

しかし、地域の人びとの活動があったからこそ、齋宮跡が遺跡として保存され、現在も受け継がれているといえます。地域の人びとの文化財を大切にする想いをこれからも受け継いでいきましょう。



江戸時代の絵図（個人蔵）に描かれた齋王の森と現在の竹神社周辺



顕彰運動で建てられた標石（上）
明治時代に顕彰運動に尽力した
地元の人びと（下）
大西源一氏撮影



齋王の森
國學院大學デジタルミュージアム
「大場磐雄博士写真資料」より
昭和 17 年 (1942) 撮影



くしやさだじろう
榎谷定治郎



いぬい かくろう
乾 覚郎



ながしませつこう
永島雪江



きたの のぶひこ
北野信彦

キーワード：齋宮、齋王、顕彰運動